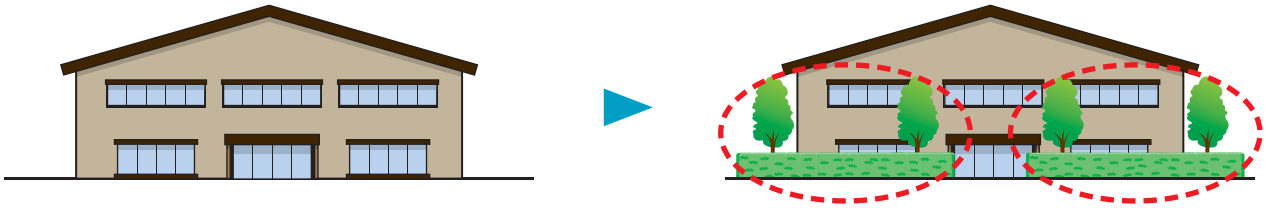
A11　敷地の緑化　基本的基準

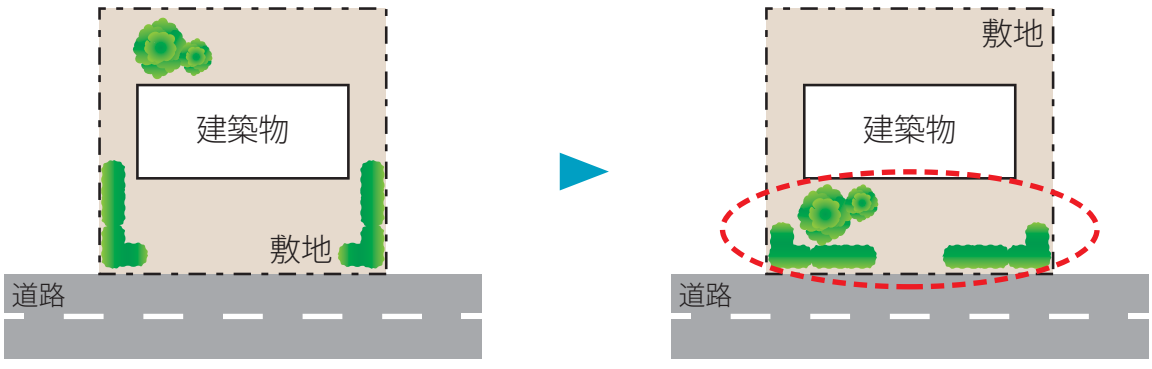
基準　○行為地内においては、できる限り多くの部分を緑化すること。

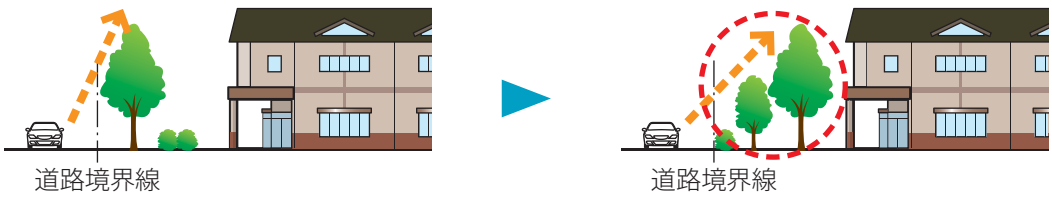
■具体的な配慮の例■

○行為地内はできる限り緑化し、安らぎや安心感を与えるよう配慮する。



○公共の場所に面した場所への緑化や、バランスのとれた低木と高木の配置など植栽計画の工夫により、歩行者等に安らぎや安心感を与えるよう配慮する。





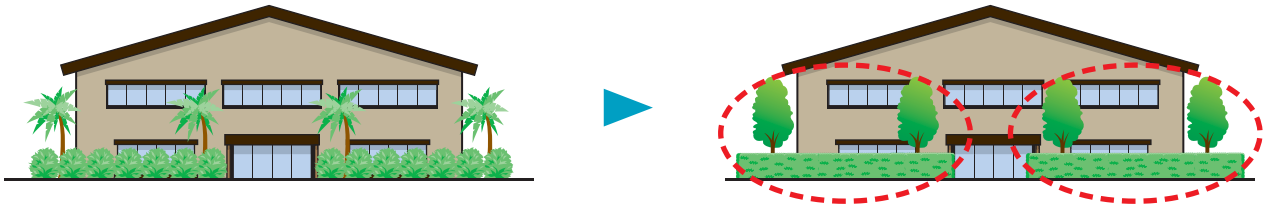
A11−1 敷地の緑化　基本的基準

基準

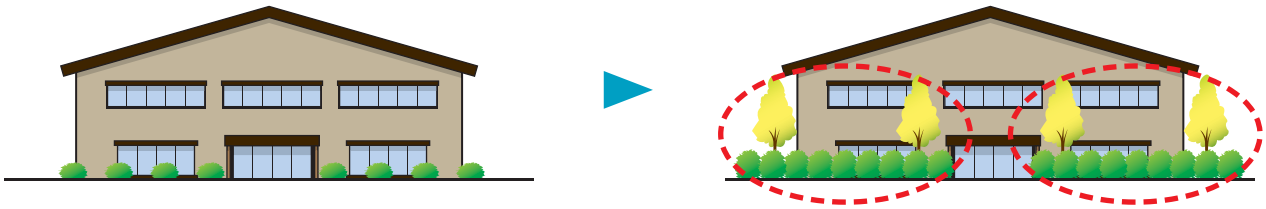
・緑化の際は、地域に自生し、周辺の景観と調和のとれた樹種を用いるよう配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○緑化する際は、地域に自生する樹種を用いるなど、周辺の景観との調和や自然公園内における生態系の保護に配慮する。



○樹木の成長や季節の彩りなどを考慮した樹種を選定し、バランスの良い植栽計画となるよう配慮する。



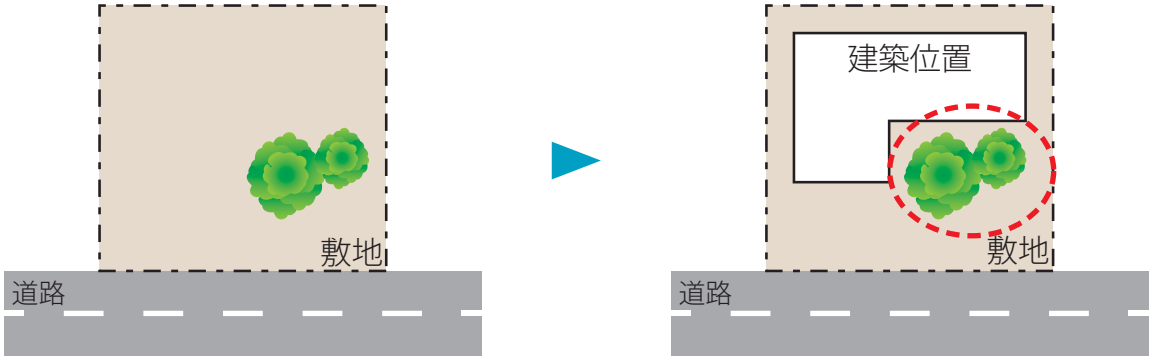
A11−2 敷地の緑化　基本的基準

基準

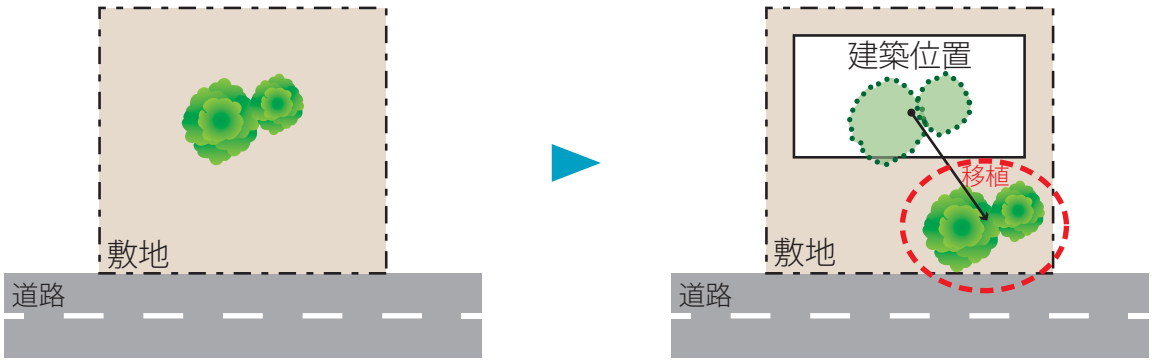
・行為地にある樹形又は樹勢の優れた樹木は、できる限り保存又は移植し、修景等に活かすこと。

■具体的な配慮の例■

○行為地内に既存の巨木等がある場合、できる限り樹木を保存するとともに、建築物等の規模や配置を工夫し、巨木を道路等の公共の場所から望見できるよう配慮する。



○やむを得ず樹木をそのまま保存できない場合は、行為地内で移植し、修景に活かせるよう配慮する。



A12　夜間の照明　基本的基準

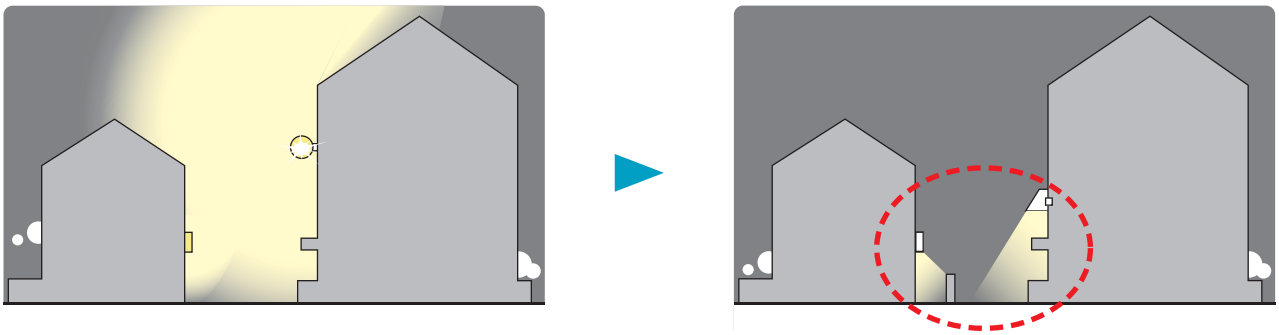
基準

○夜間の屋外照明は、過剰な光が周囲に散乱しないようにするなど、照明の方法や設置場所を工夫し、周辺の状況に応じた夜間景観を演出するよう配慮すること。

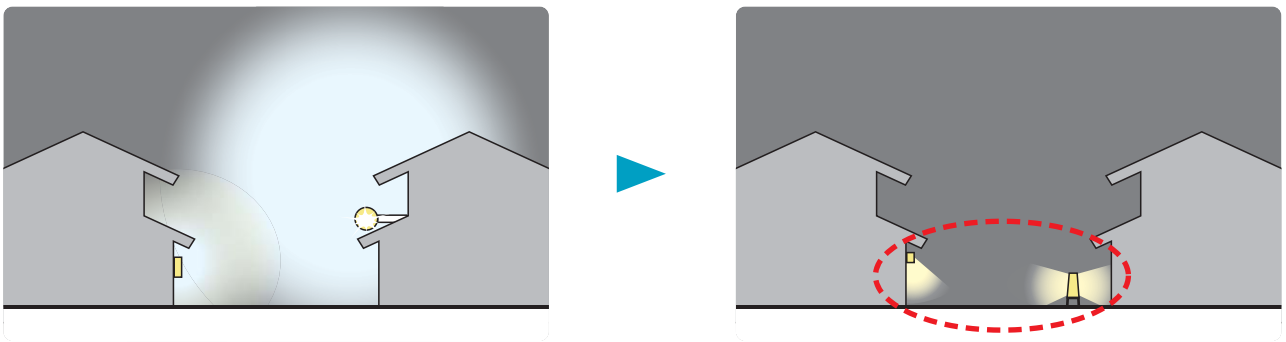
■具体的な配慮の例■

○夜間の屋外照明は光源の配置や向き、明るさ等を工夫し、また、点灯時間を限定するなど、周辺に過剰な光が散乱しないよう配慮する。

○間接照明の有効活用など、周辺の状況に応じて照明の方法や色を工夫することで、賑わいの演出や趣の演出など、歩行者等に安心感を与えるよう配慮する。



○周辺に歴史的まちなみや集落景観の整っている地域がある場合、和風の趣のある照明器具を使用するなど、まちなみに相応しい落ち着きのある夜間景観の演出に配慮する。



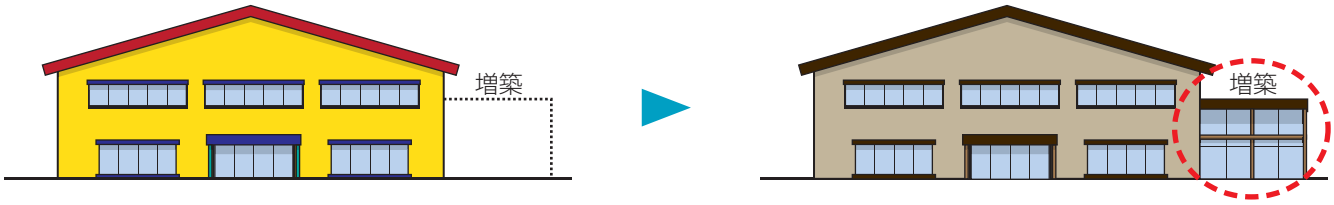
A13　その他　基本的基準

基準

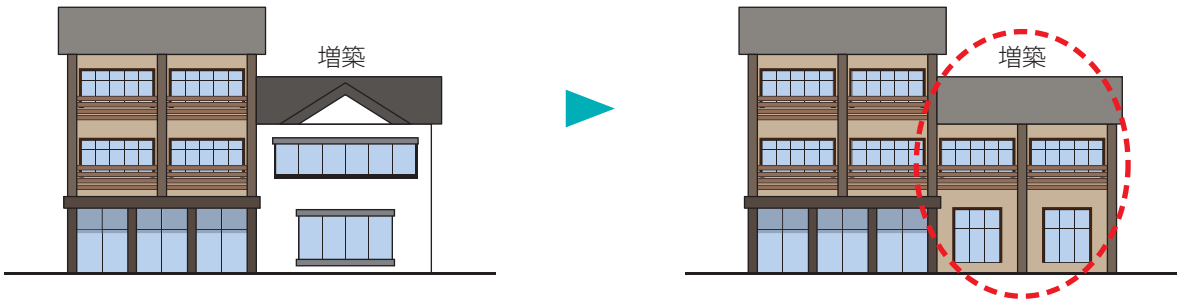
○行為地内の既存建築物等が景観を阻害している場合は、増築等にあわせてできる限り周辺の景観に調和させること。

■具体的な配慮の例■

○景観を阻害している既存の建築物等の増築等を行う際には、既存部分をできる限り景観形成基準に適合するよう改修し、周辺の景観との調和に配慮する。



○増築部分は、景観形成基準に適合するよう改修した既存部分と一体感のあるものとし、周辺の景観との調和に配慮する。



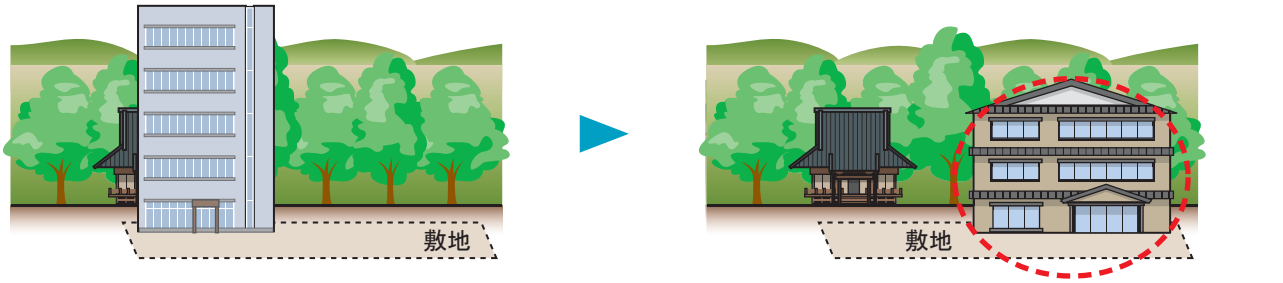
A14　景観資源への配慮　基本的基準

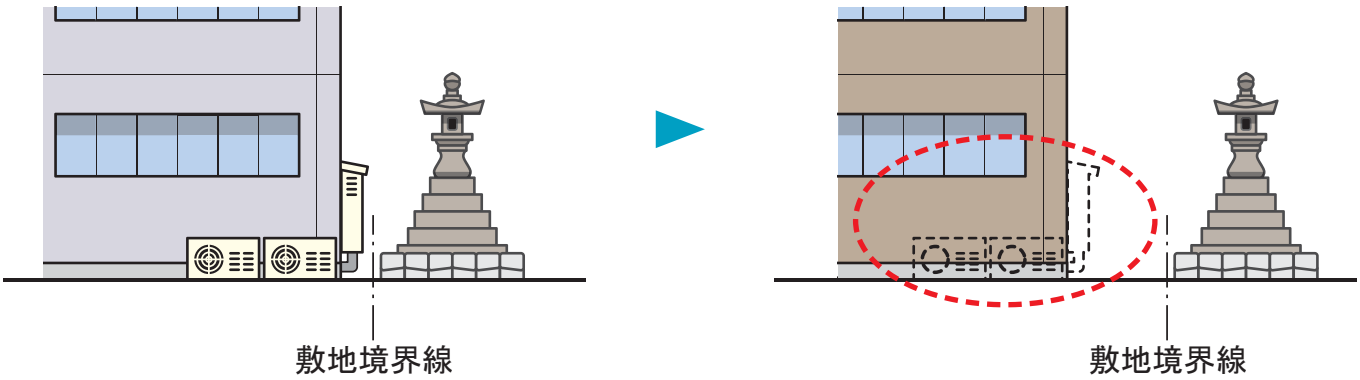
基準

○行為地が文化財、特徴的な建造物や樹木等の景観資源に近接する場合は、その保全に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○行為地の周辺に文化財や特徴的な建造物、樹木等の景観資源がある場合、建築物等の規模や配置、形態意匠などを工夫することにより、景観資源の保全に配慮する。





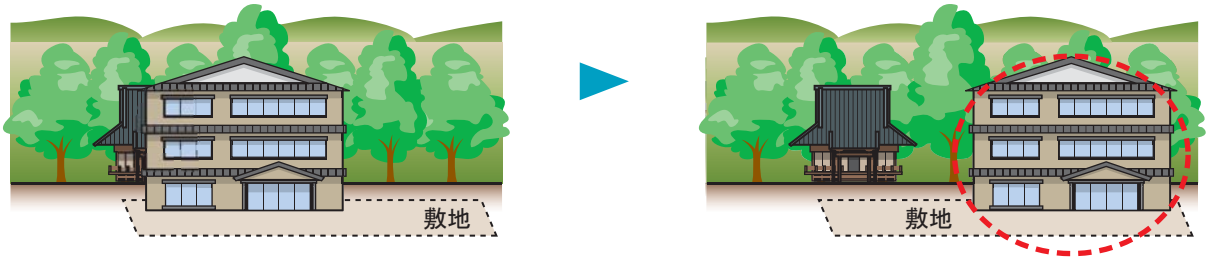
A14−1　景観資源への配慮（規模・配置）基本的基準

基準

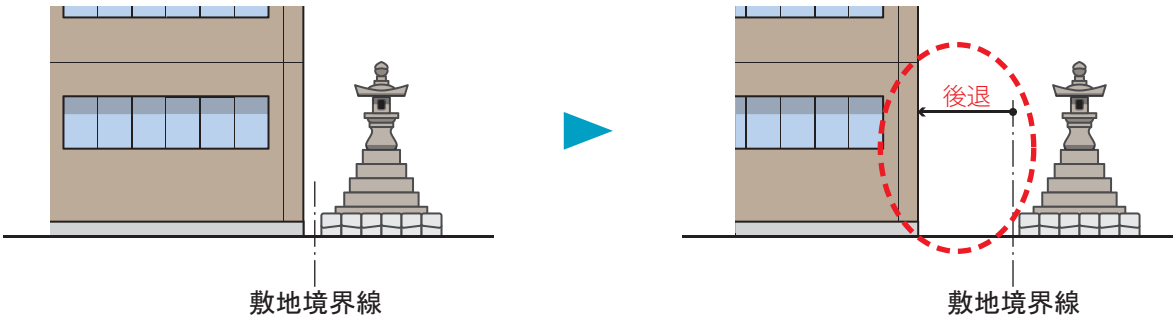
・景観資源に近接して圧迫感のある壁面等が生じないよう、規模や配置を工夫すること。

■具体的な配慮の例■

○景観資源に近接した建築物等は、当該資源からできる限り離して配置するなど、周辺から景観資源への見通しの確保や、景観資源の保全に配慮する。



○景観資源に面する側の壁面をできる限り後退させるなど、景観資源に近接して圧迫感のある壁面が生じないよう配慮する。



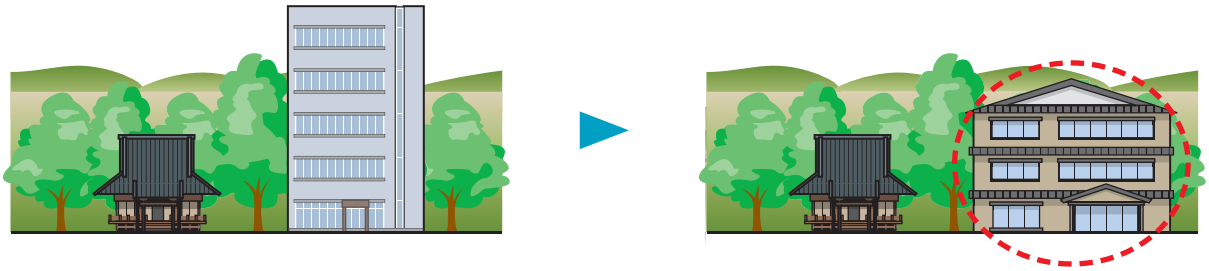
A14−2　景観資源への配慮（形態意匠）　基本的基準

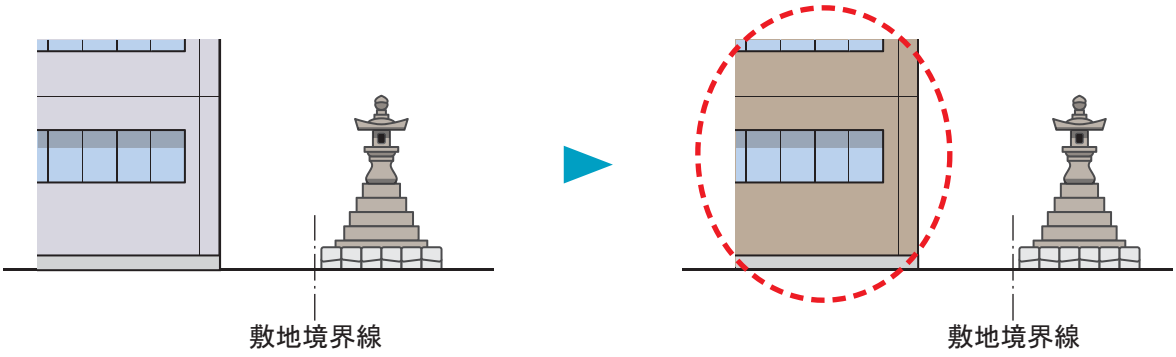
基準

・景観資源に近接する外壁や屋根の形態意匠、色彩や素材は、景観資源との調和に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○景観資源に近接した建築物等は、形態意匠や色彩、素材等を工夫し、当該資源に合わせて和風の形態意匠とするなど、景観資源の保全や周辺との調和に配慮する。



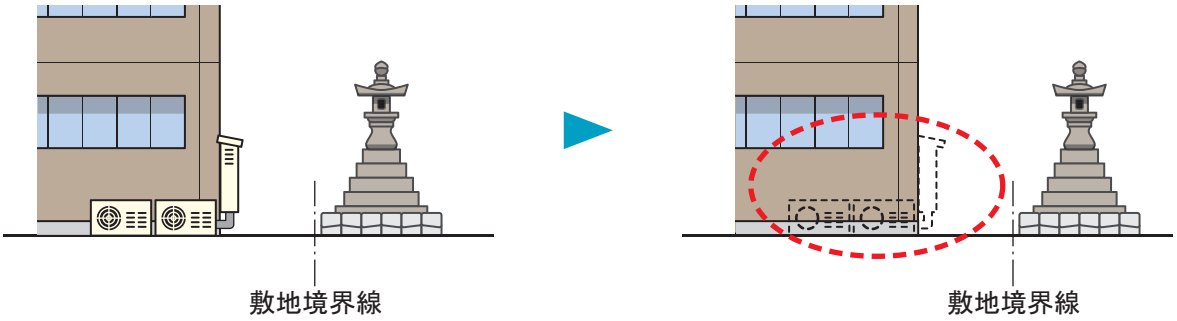


A14−3　景観資源への配慮（附属建築物・附属設備）　基本的基準

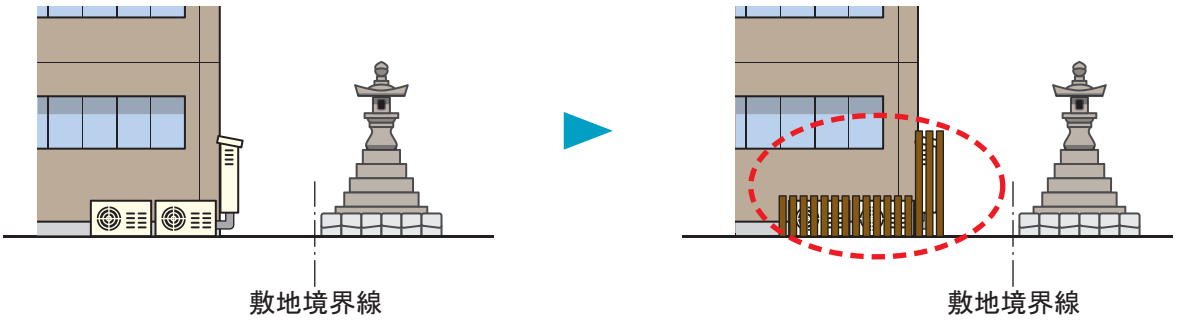
基準　・景観資源に近接して附属建築物や附属設備を設けないよう工夫すること。

■具体的な配慮の例■

○景観資源に近接した建築物等の附属建築物や附属設備等は、景観資源の周辺から望見できる場所に設置することは避け、景観資源の保全に配慮する。



○やむを得ず景観資源に近接した場所に附属設備等が露出する場合は、ルーバー等で覆い、景観資源の保全に配慮する。



A15　電気・通信施設

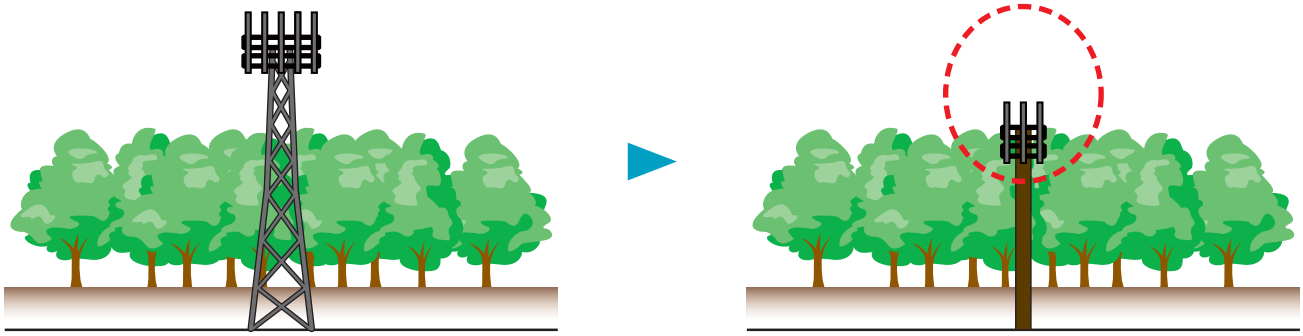
基本的基準

基準

○携帯電話基地局等の設置にあたっては、以上の項目に加え、設置場所や形状等について以下のことを工夫し、周辺景観との調和に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○携帯電話基地局等の電気・通信施設は、できる限り周辺の景観から突出しないよう、高さや形状、設置場所、色彩等を工夫する。



A15−1 電気・通信施設

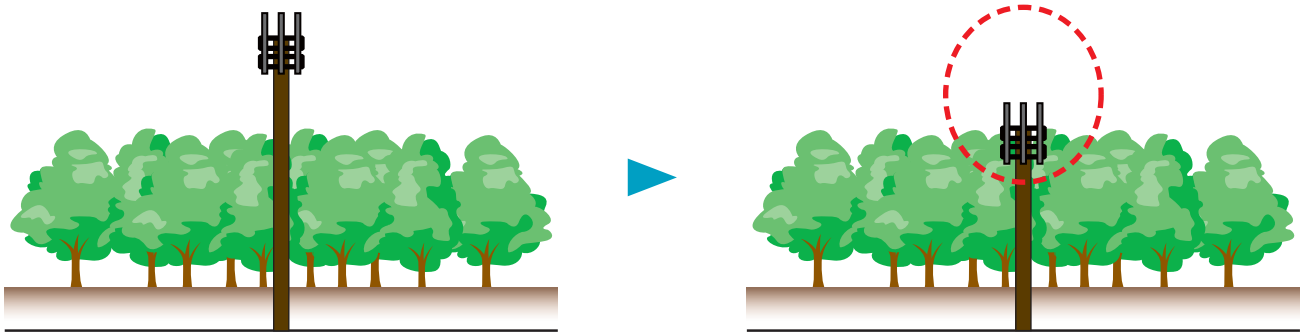
基本的基準

基準

・必要最低限の高さに抑えること。

■具体的な配慮の例■

○携帯電話基地局等の高さはできる限り低く抑え、周辺の景観から突出しないよう配慮する。



A15−2 電気・通信施設

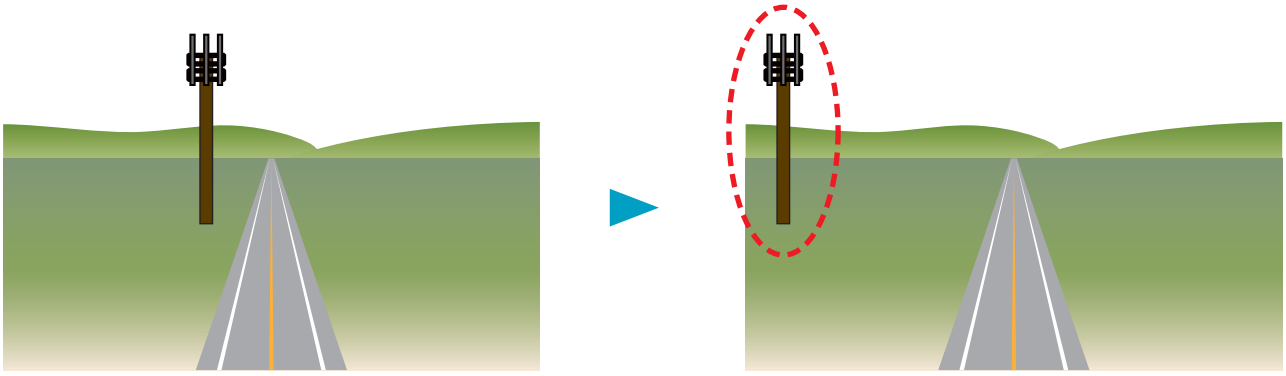
基本的基準

基準

・主要な道路等からできるだけ離して設置すること。

■具体的な配慮の例■

○国道や県道など主要な道路沿いに設置することは避け、できる限り目立たないよう配慮する。



A15−3 電気・通信施設

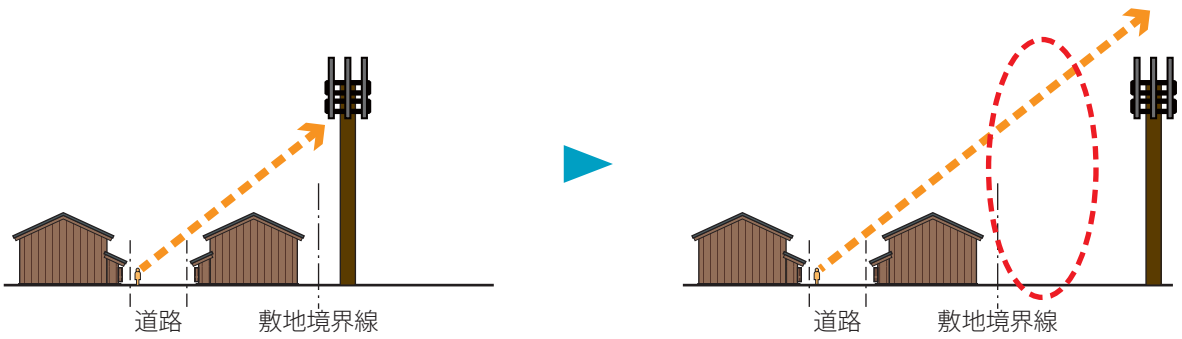
基本的基準

基準

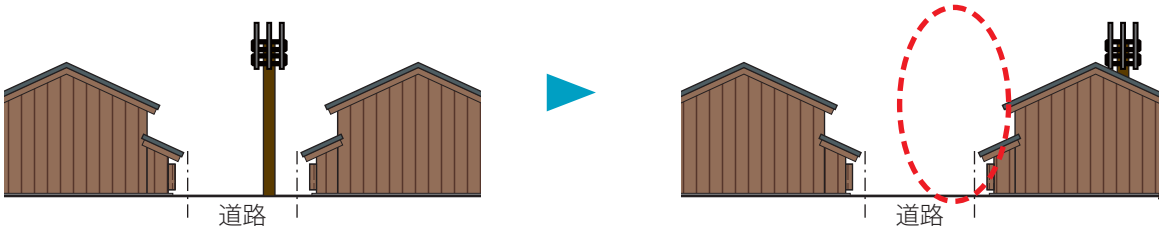
・行為地の周辺に歴史的まちなみや集落景観の整っている地域がある場合、そこから目立つ場所は避けて設置すること。

■具体的な配慮の例■

○歴史的まちなみや集落内に建つ建築物等に近接した場所に設置する場合、できる限りまちなみから離れた行為地を選定するなど、歴史的まちなみや集落内から見えない場所に設置するよう配慮する。



○歴史的まちなみや集落内を通る街道や古道、公園や神社などの主要な場所から見通せる場所に設置することは避け、そこから目立ちにくい場所を行為地として選定することにより、歴史的まちなみや集落景観の保全に配慮する。



A15−4 電気・通信施設

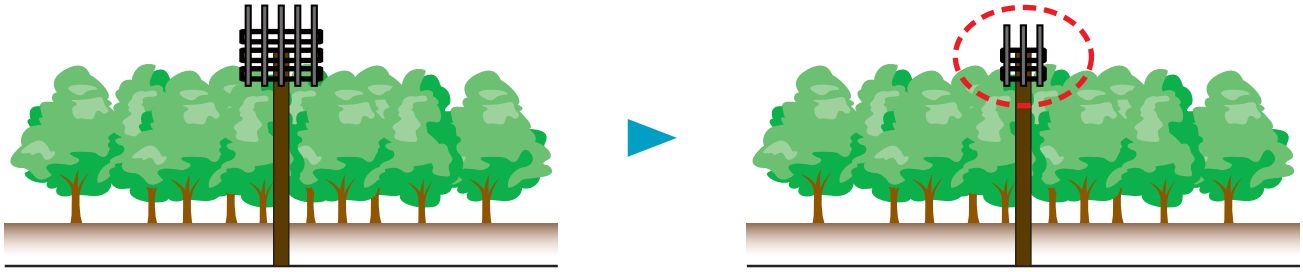
基本的基準

基準

・上部を小さくするなど、安定感のある印象をあたえる形態とすること。

■具体的な配慮の例■

○携帯電話基地局等の上部のアンテナ等の機器はできる限り小さくすることで、安定感のある形状とし、周辺の景観から突出しないよう配慮する。



A15−5 電気・通信施設

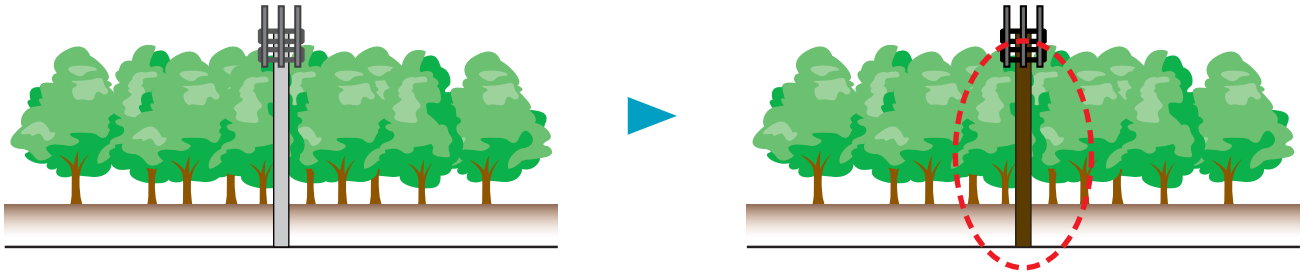
基本的基準

基準

・山地や樹林地が背景となる場合は、背景となる樹木等に溶け込むように、茶系で低明度のもの（マンセル値10YR2.0/1.0程度）又は灰色で低明度のもの（マンセル値N4.5程度）とすること。

■具体的な配慮の例■

○背景となる樹木等に溶け込みやすい茶系で低明度の色彩または灰色で低明度の色彩とし、周辺の景観から突出しないよう配慮する。



A15−6 電気・通信施設

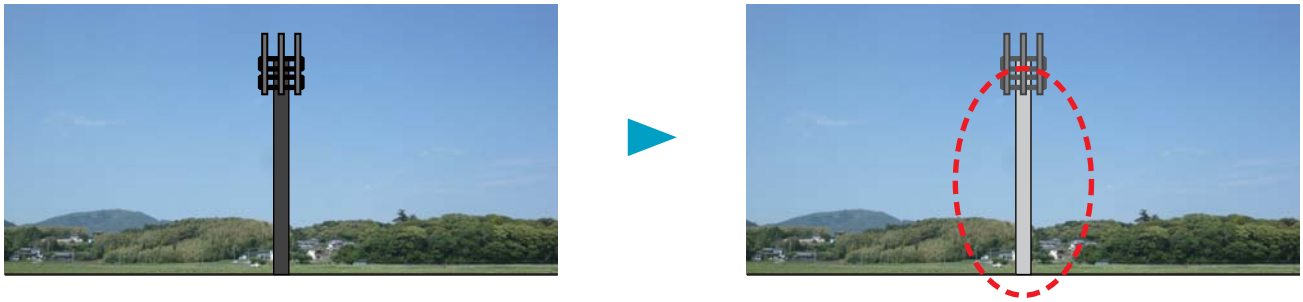
基本的基準

基準

・前記以外の場所においては、空に溶け込むように、灰色で中明度のもの（マンセル値N7.0程度）とすること。ただし、設置場所周辺の状況から別途配慮が必要な場合は、この限りでない。

■具体的な配慮の例■

○背景となる空に溶け込みやすい灰色で中明度の色彩とし、周辺の景観から突出しないよう配慮する。

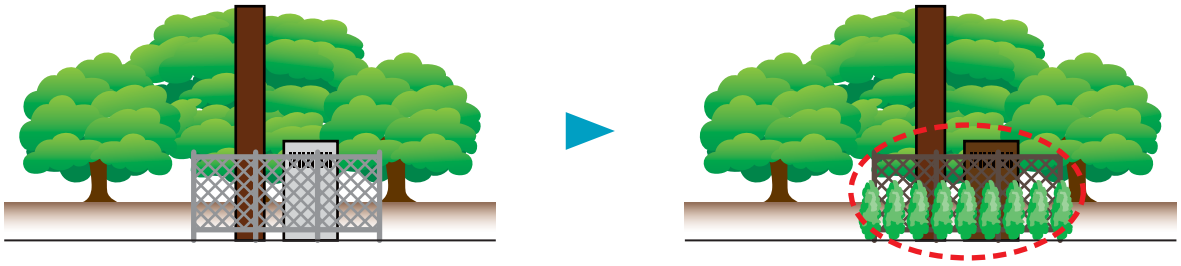


A15−7 電気・通信施設

基本的基準

基準

・公共の場から望見できる場所に設備機器類を設置し、フェンス等で囲う場合は、フェンス等は設備機器類を含めて茶系で低明度（マンセル値10YR2.0/1.0程度）のものとするとともに、遮へい効果のある生垣等を敷地周囲に配置するなど緑化に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○携帯電話基地局等と共に設置する設備機器類は、周辺の景観に溶け込みやすい茶系で低明度の色彩とし、また、フェンス等の周囲を生垣等で緑化することにより、周辺から目立ちにくくなるよう配慮する。